

2025年12月25日

News Release

芙蓉総合リース株式会社

(コード番号: 8424 東証プライム)

代表取締役社長 織田 寛明

各種補助・助成制度に依らない国内初の

「非常時地域開放型蓄電池事業」の実施について（茨城県 笠間市）

芙蓉総合リース株式会社（東京都千代田区、代表取締役社長 織田 寛明、以下「芙蓉リース」）は、茨城県笠間市において非常時地域開放型蓄電池事業（以下「本事業」）を実施することをお知らせいたします。本事業は自治体の公共用地で大規模災害時のレジリエンス強化に貢献する各種補助・助成制度に依らない国内初*の取り組みであり、その第1号案件となります。

本事業は、笠間市（市長 山口 伸樹）と東電タウンプランニング株式会社（東京都港区、代表取締役社長 鈴木 祐輔）と系統用蓄電池の設置と同設備からの非常災害時における電力提供に関する協定を締結し、官民連携で実施してまいります。

<案件概要>

- 事業場所：茨城県笠間市民体育館（拠点避難所）隣接地
- 事業開始：2026年9月頃
- 設備規模：高圧（出力：2MW、容量：8MWh）

<事業の特色>

系統用蓄電所を拠点避難所の近傍に建設し、通常は蓄電事業者が電力市場での取引による充放電を行い、電力が広域・長期停電するような非常災害時には、蓄電池内の電力を拠点避難所に無償提供して非常用電源として活用するものです。

また、系統用蓄電所は、再エネ電源が多い地域では、その地産地消や発電抑制の回避などに貢献すると期待され、笠間市はそうした地域にも相当します。

<設備イメージ>



芙蓉リースグループは2022年度からスタートした中期経営計画「Fuyo Shared Value2026」において、CSV（Creating Shared Value：共有価値の創造）の実践を通じた社会課題の解決と経済価値の同時実現により、企業グループとしての持続的な成長を目指しております。

また、「エネルギー環境」を経営資源を集中投下する成長ドライバーのひとつに位置付け、多様なエネルギー関連事業を国内外で展開し、脱炭素社会の実現に貢献するビジネスを取り組んでいます。電力需給の安定化と再エネの主力電源化に向けて必要不可欠な新たなビジネスモデルである系統用蓄電池事業に積極的に取り組むことで、ビジネス領域の拡大と豊かな社会の実現に貢献してまいります。

* 当社調べ

以上

お問い合わせ先

芙蓉総合リース株式会社 コーポレートコミュニケーション室（担当）渡邊
電話番号：03（5275）8891 URL：<https://www.fgl.co.jp/>